

- 一、傍線部を口語訳せよ。
- 1 天人の中に持たせたる箱あり。天(あま)の羽衣入(はごろもい)れり。(竹取物語)

- 二、次の助動詞の活用表を完成させ、それぞれ活用語の何形に接続するかも答えよ。
- 1

つ	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続

ぬ	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続

- 三、傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- 1 既(すで)に船いだすべしとてひしめきあへば、僧都乗つては降りつ、降りては乗つつ、あらまし事をぞし給ひける。(平家物語)

- 四、傍線部の助動詞の活用形を答えよ。

- 1 二(ふた)むらの山の中にとまりたる夜、大きな柿の木の下に庵(いほ)を作りたれば、夜ひとよ、庵の上に柿の落ちかかりたるを、人々拾ひなどす。(更級日記)

- 五、空欄に助動詞「つ」「ぬ」を活用させて入れよ。

- 1 年(ご)る思ひ() () こと果たし侍りぬ。(徒然草)

- 六、次の文より助動詞「つ」「ぬ」を抜き出せ。

- 1 もとの御かたちとなり給ひね。(竹取物語)

- 七、傍線部の助動詞の意味を次のア～ウから選べ。

〈ア・完了 イ・強意 ウ・並列〉

- 1 「さらば敵の聞かぬ先に寄せよや」とて、駆足(かけあし)になつつ、歩ませつ、馳(は)せつ、控(く)つ、阿(あ)波(は)と讃岐(さぬき)との境なる大坂越えといふ山を、夜もすがらこそ越えられけれ。(平家物語)

- 八、空欄に完了の助動詞「たり」を活用させて入れよ。

- 1 かくて明けゆく空の気色、昨日に変わりは() () とは見えねど、ひきかへ珍しき心地ぞする。(徒然草)

- 九、次の文より助動詞「たり」「り」を抜き出せ。

- 1 舟子かぢ取りは舟歌うたひて、何とも思へらず。(土佐日記)

- 十、傍線部の助動詞の意味を次のア・イから選べ。

〈ア・完了 イ・存続〉

- 1 勅使、藏人(くらうど)の侍従宗基(むねもと)、目錄を持ちて参れり。(増鏡)

1 一、
天の羽衣が入っている

1 二、

つ	基本形
て	未然形
て	連用形
つ	終止形
つる	連体形
つれ	已然形
てよ	命令形
連用形	接続

1 三、
並列

ぬ	基本形
な	未然形
に	連用形
ぬ	終止形
ぬる	連体形
ぬれ	已然形
ね	命令形
連用形	接続

1 四、
已然形

1 五、
つる

1 六、
ね

1 七、
ウ

1 八、
たり

1 九、
ら

1 十、
ア